

北本循環交流神社 ～氏子が生み出す多世代コミュニティ～



神社の実態

地元である、埼玉県北本市には多くの神社がある。
神社の役員である責任役員や祭事に関わる総代は地域活動に積極的だが、高齢であることが多く、年々衰退の兆しがみられる。
神社自体も跡継ぎがないなどの理由で、宮司が常勤している神社が減り、北本市では高尾氷川神社1社のみであり、神職がない神社を兼務している。

栄えている神社



高尾氷川神社

管理の行き届かない神社



八幡宮

神社の実態

一方で、神社にはまだ子どもたちにも楽しんでもらえる伝統がある。年に一度の屋台が出る夏祭りには地元の小中学生や親子が多く訪れた。新年の初詣には屋台は出ずとも、年明けとともに夜中から多くの参拝者が参道に並び賑わいを見せる。

神社の文化が残りつつも失われ始めている今が再生の最後のチャンスである。まだまだ社会活動に貢献したい氏子を中心とした文化圏のつながりを創り出し、神社が生み出す多世代コミュニティプログラムを提案することを本研究の目的とする。



高尾氷川神社での夏の祭（祭事）



年明けの高尾氷川神社



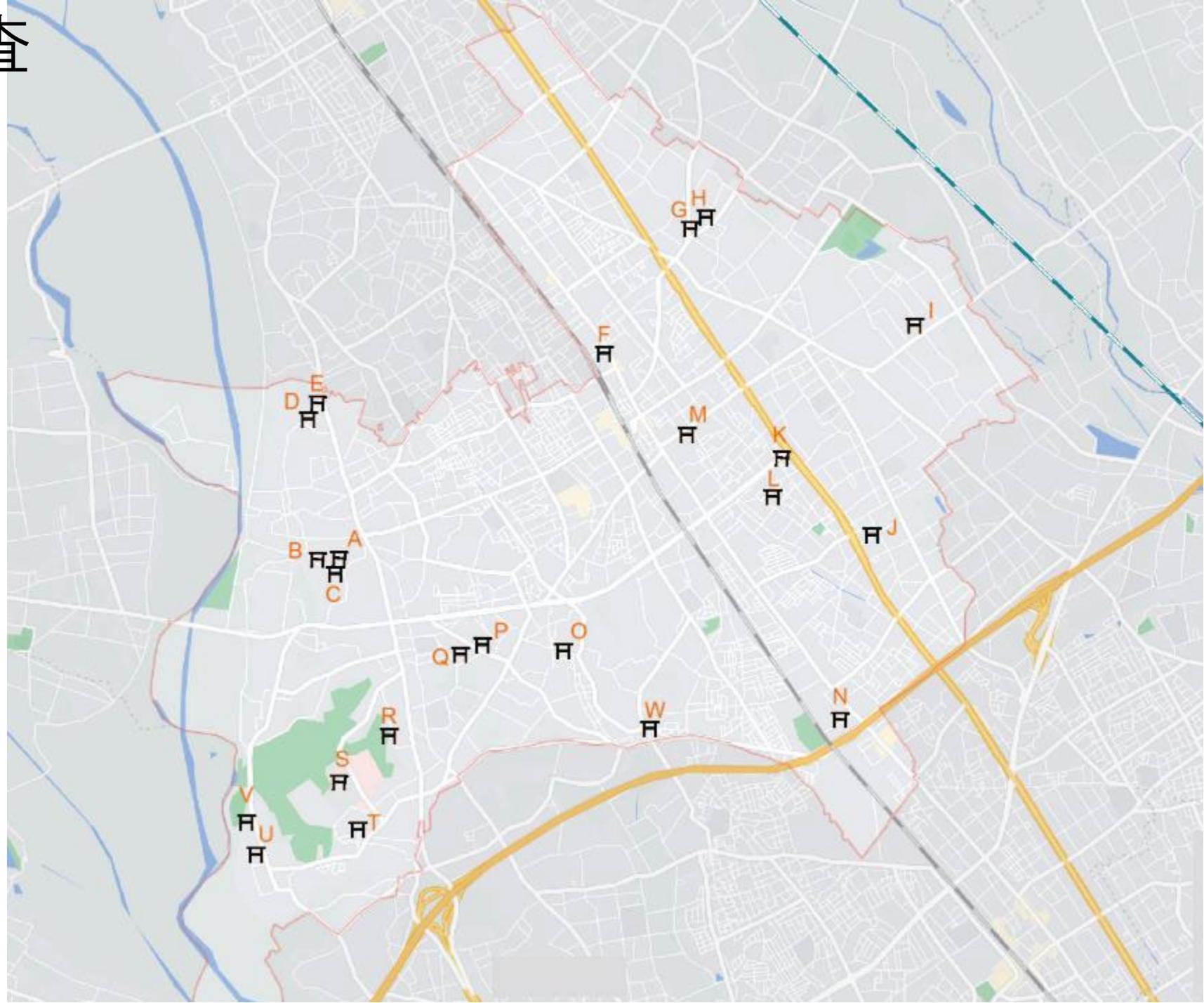
東間浅間神社での初山

北本市の神社の調査

北本市の神社を調べ、全ての神社、計23社を訪れた。

23社を北本市の地図にマッピングすると右図のようになる。地図をみると、線路の左側、特に市のはずれ(高尾、石戸、石戸宿)の方に神社が集中し、また川に沿って神社が位置しているようにも見える。

23社のうち、宮司が常勤している神社はAの位置にある高尾氷川神社のみだった。



北本市の神社一覽



A 高尾氷川神社



B 巖島神社



C 須賀神社



D 北袋神社



E 遠藤稲荷神社



F 東間浅間神社



G 宮内巖島神社



H 宮内氷川神社



I 白山神社



J 神明神社



K 蔵前愛宕神社



L 中丸氷川神社



M 本宿天神社



N 二ツ家稲荷神社



O 石戸氷川神社



P 石戸八雲神社



Q 竹乃子浅間神社



R 黒稲荷神社



S コッコホ北里神社



T 石戸神社



U 八幡宮



V 石戸宿天神社



W 金毘羅大権現

高尾氷川神社の兼務社

専属の神職がおらず、高尾氷川神社の宮司が社務を兼任しており、祭事も行っている神社もある。

兼務社の御朱印も高尾氷川神社で出している。（御朱印のない神社もある。）



須賀神社



巖島神社（弁財天）



本宿天神社



東間浅間神社



石戸八雲神社



石戸氷川神社



竹乃子浅間神社



黒稻荷神社



二ツ家稻荷神社



蔵前愛宕神社



北袋神社



遠藤稻荷神社

社殿に人が入ることができない神社

社殿のとびらを開けるとすぐに神棚があり、人が社殿に入ることができそうにない神社。
金毘羅大権現はとびらに釘が打たれており、入ることができない。



B 巖島神社 (弁財天)



E 遠藤稲荷神社



G 宮内巖島神社



N ニツ家稲荷神社



R 黒稲荷神社



S コッホ北里神社



U 八幡宮



W 金毘羅大権現

高低差がある神社



B 巖島神社
(階段下)

高尾氷川神社の脇にある階段を下ると、池になっていて、その上に鎮座している。階段は急であり、石の段差も多いので歩きにくい。



F 東間浅間神社
(階段上)

参道をまっすぐ歩いた所から始まる階段。階段の踏面が狭く急なため特に階段を下りる時は怖いと感じる。手すりは丈夫なものが設置されている。



Q 竹乃子浅間神社
(階段上)

鳥居をくぐるとすぐに階段が始まる。階段は整備されたもので、急ではあるが、上りやすく下りやすい。手すりもしっかりとしたものが設置されている。

近寄りがたい神社

外から神社を見た時に木々がうっそうとしており、入ることに抵抗を感じた神社



G 宮内巖島神社



H 宮内氷川神社



T 石戸神社



U 八幡宮



V 石戸宿天神社

高尾氷川神社の宮司にヒアリングを行う

- 神様は分身することができる。
一族の神→地域の神→部落が大きくなり、別に移る際に、神様の分身を連れていく。これにより、同じ名前の神社が増えていく。
- 氷川神社は荒川に沿って位置してきた。
- 責任役員…神社事務の役員
- 総代 …祭事に関わる役員。氏子の代表として選ばれる。
総代の人数は神社ごとに決まる。過疎化が進んでいる地域では人数を減らさざるを得ないこともある。また、自治体の人数が増えれば逆に増やすところもある。
- 兼務社の祭事も行っている。
例祭は春、夏、秋、冬等、1社につき年6回ほど総代や当番の人が来る。

高尾氷川神社での調査結果

調査日	6月26日（日）友引	7月17日（日）赤口
天気	晴れ	雨のち曇り
時間	10時～15時 5時間	10時～15時 5時間
参拝者	51人	52人
御朱印	1人	3人
祈祷	2組	6組
お守り	1組	6組
みくじ	3人	3人

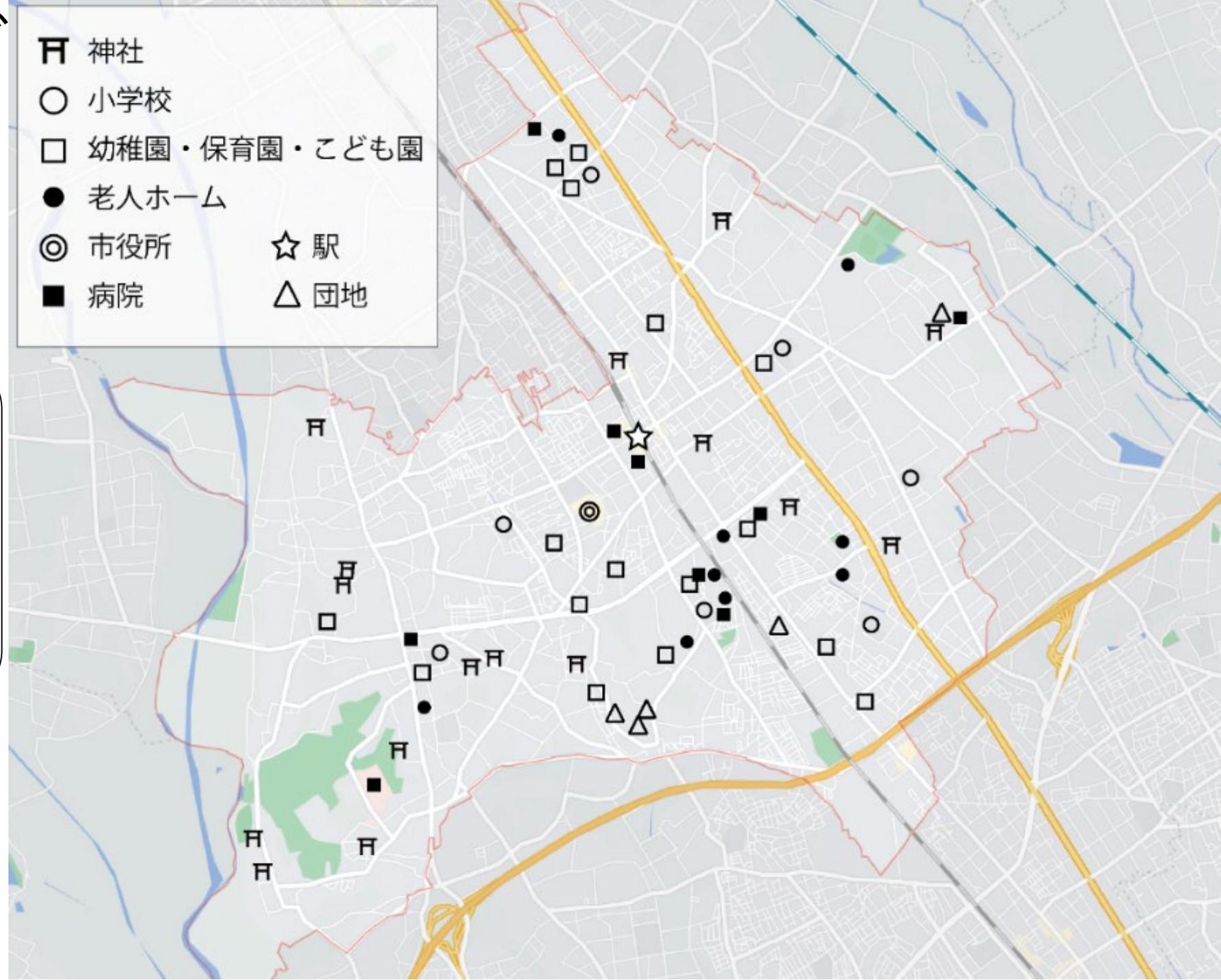
参拝者は両日ともに約50人程度いたが、多くの方は散歩の途中で寄るだけなどで、長居する人はほとんどいなかった。御祈祷を受けられた方は午前に集中しており、午後の方が人が少なかった。また、今回は御朱印を求めていた方の人数が少なかったが、通常5件程度はあり、中には兼務社全ての御朱印を受けていかれる方もいる。

神社のマッピング

神社と移動手段のない子どもや高齢者が利用する施設をマッピングする。

子どもや高齢者が利用する場所

- ・ 小学校
- ・ 幼稚園、保育園、こども園
- ・ 老人ホーム
- ・ 病院
- ・ 団地
- ・ 市役所
- ・ 駅



バスルートとゾーンの設定

マッピングした施設と神社を中心に市内を循環するバスルートと近隣の神社をつなぐ自転車や徒歩のルートを設定する。バスはワゴン車を想定。バスルートを3つの項目にゾーニングする。

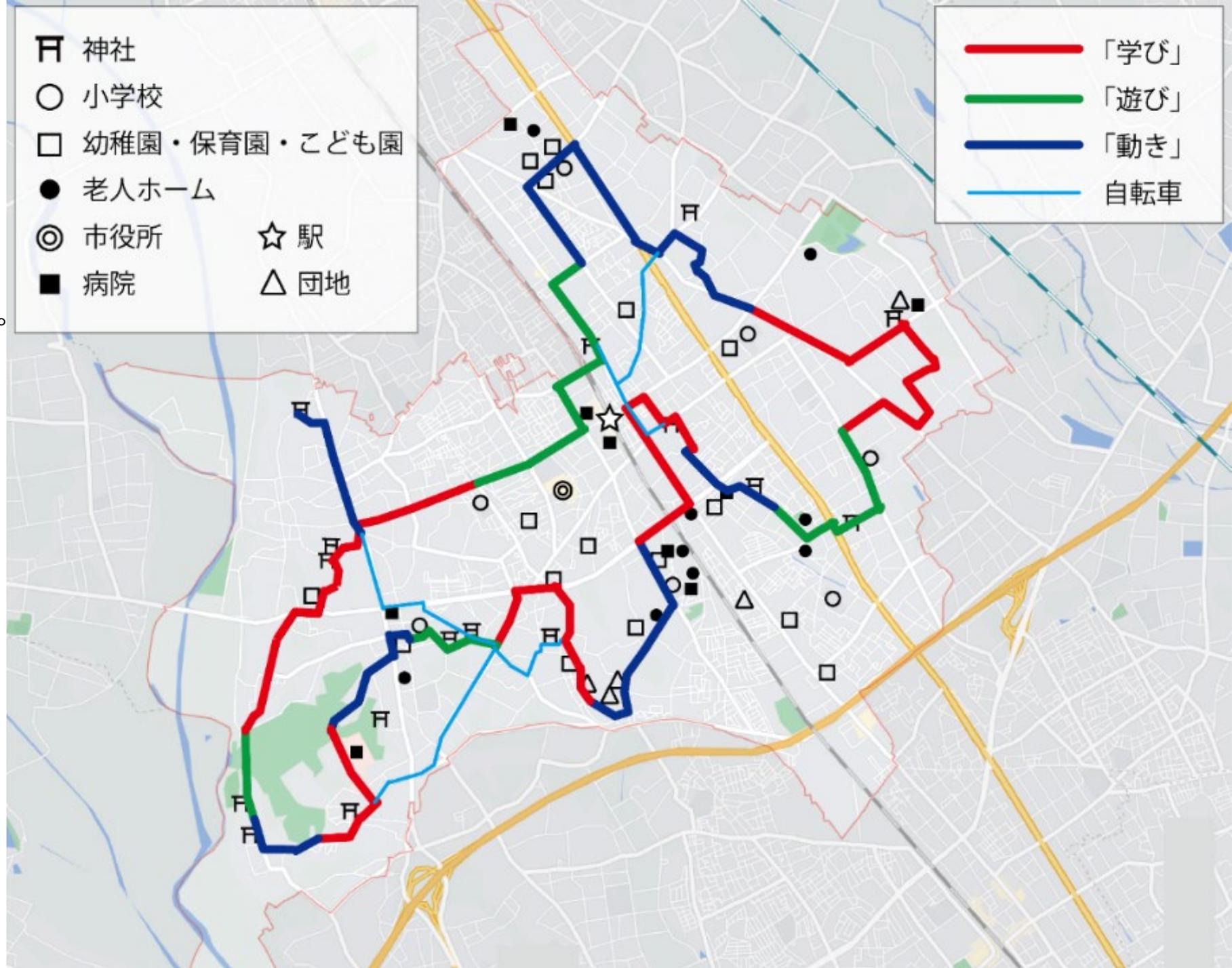
寺子屋のように神社を使用し、子どもたちも高齢者も一緒になって交流できるテーマとしてこの3つの項目を選択した。

「学び」 学習や文化など年齢に関係なく学ぶ

「遊び」 自然と触れ合いながら年齢の壁をなくして交流を育む

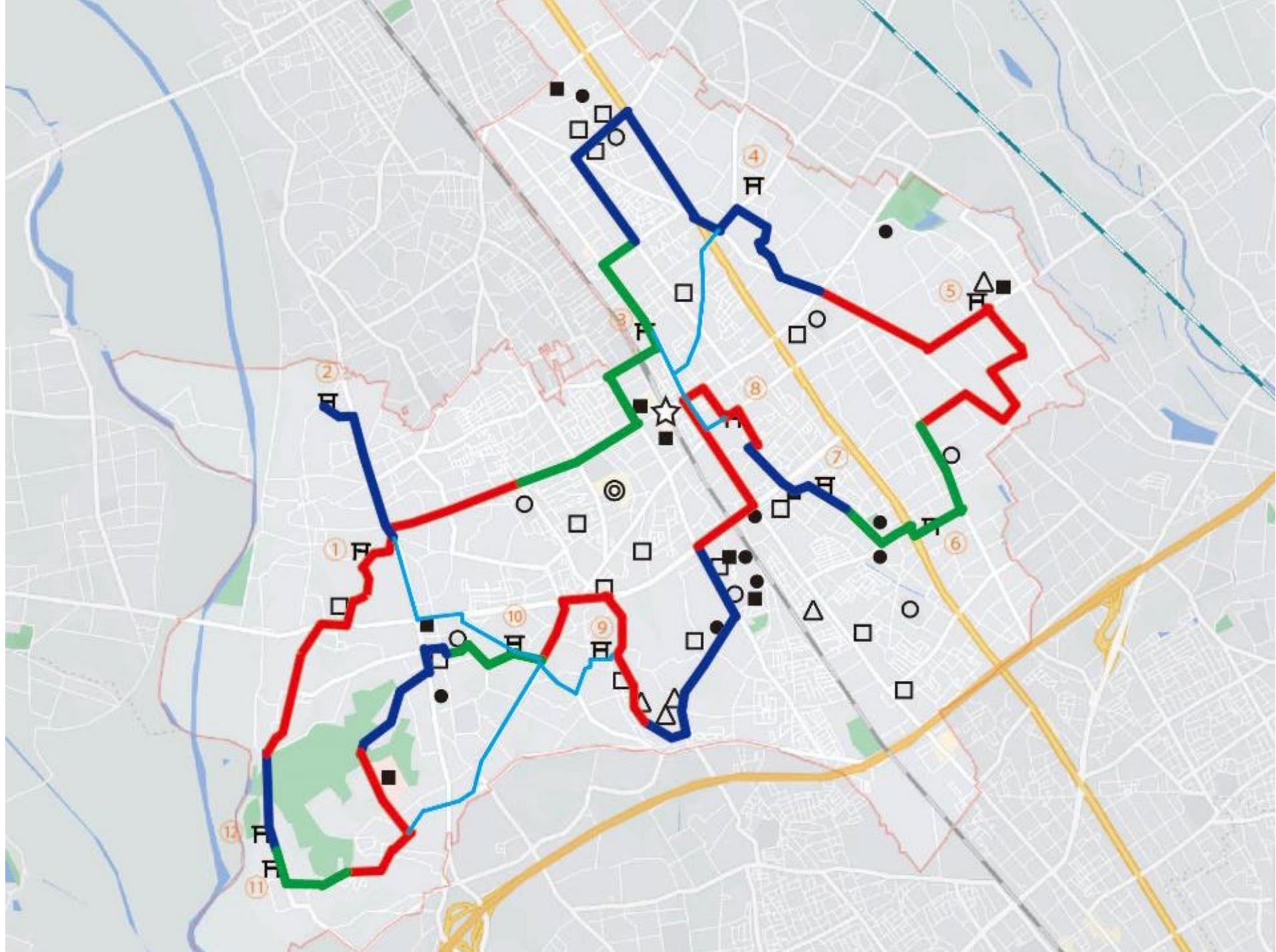
「動き」 無理なく継続的にエクササイズを行う

それぞれの項目をバランス良く配置し、市内の各神社を巡って様々な体験を楽しむ計画とする。



設計

「学び」「遊び」「動き」
の各ゾーニングに合わせて
神社や周辺環境の特性を生
かしたプログラムを設定し、
氏子と子どもたちを中心と
した文化圏の繋がりを生み
出す空間を設計する。



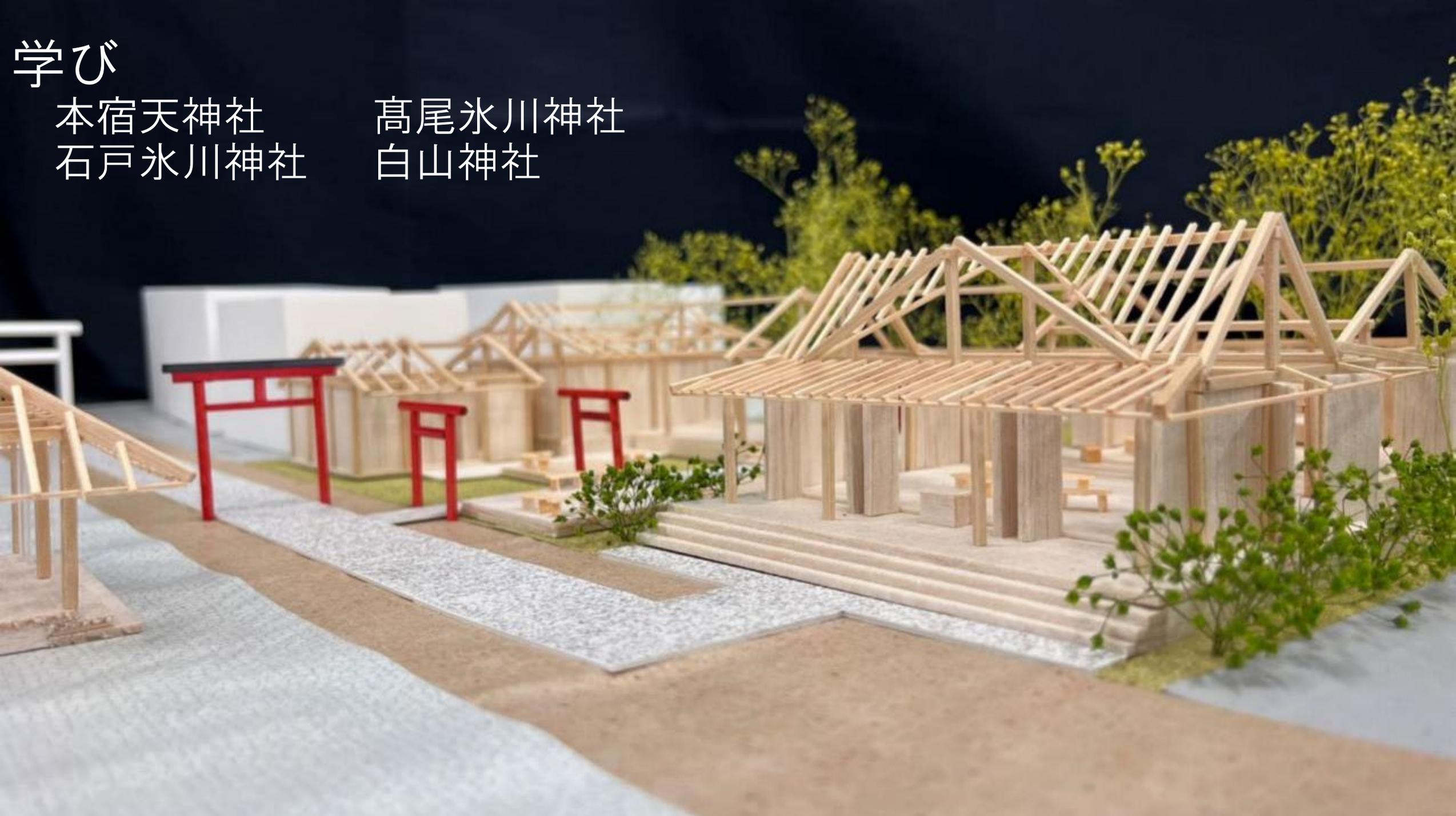
学び

本宿天神社

石戸氷川神社

高尾氷川神社

白山神社



⑧本宿天神社：音楽

駅に比較的近い所に位置しており、表の通りも多くの人が利用する。

子どもたちの合唱の声や合奏の音色を通行人にも楽しんでもらいたいと考え、プログラムを音楽に設定した。





人通りの多い道から参道がのびていて、2つの鳥居を抜けた先に続く社殿。参道からガラス張りのステージが見えるため、神社に立ち寄った人が神社で何をしているかわかる。



元々社殿から幅の広い階段がのびていたのので、これを階段ステージとして使用する。社殿のとびらも普段から開けておき、中の様子が外からうかがえるようにする。



社殿と建物を渡り廊下でつなぎ、行き来しやすいようにした。渡り廊下はレベル800mm上げているため、ステージとして使用できる。奥の神社への参道を確保するため、渡り廊下内に階段がついている。



ステージの周辺で発表を見ることができ、芝の上や、ベンチなどで座って鑑賞する。通路になるウッドデッキと鑑賞するときに使うウッドデッキは100mmのレベル差があり、ベンチだけでなくウッドデッキにそのまま座る事もできる。



室内音楽教室

元々は倉庫となっていた建物に改修をかけ、室内音楽教室を設計した。歌や楽器の練習を行うため、ピアノや棚、小さな椅子を設置した。



ガラス張りのステージ

社殿や渡り廊下は参道から奥まわって様子が見えにくいため、参道からも合唱や合奏の様子がわかる建物を設計した。ガラスを開けると階段も使用してステージになる。

①高尾氷川神社：植物

宮司が常勤している神社であり、管理が行き届いていて一年中四季折々の植物を楽しめる。また、宮司は花が好きであるという点から、プログラムを植物に設定した。





参道からみた社殿と御祈禱などの受付
元々少し離れたところに受付があったが、
社殿のすぐそばに配置することで、御祈禱
の際社殿への誘導がしやすくなるようにし
た。また、受付から御祈禱の様子を把握で
きるため、スムーズな流れをつくること
ができる。

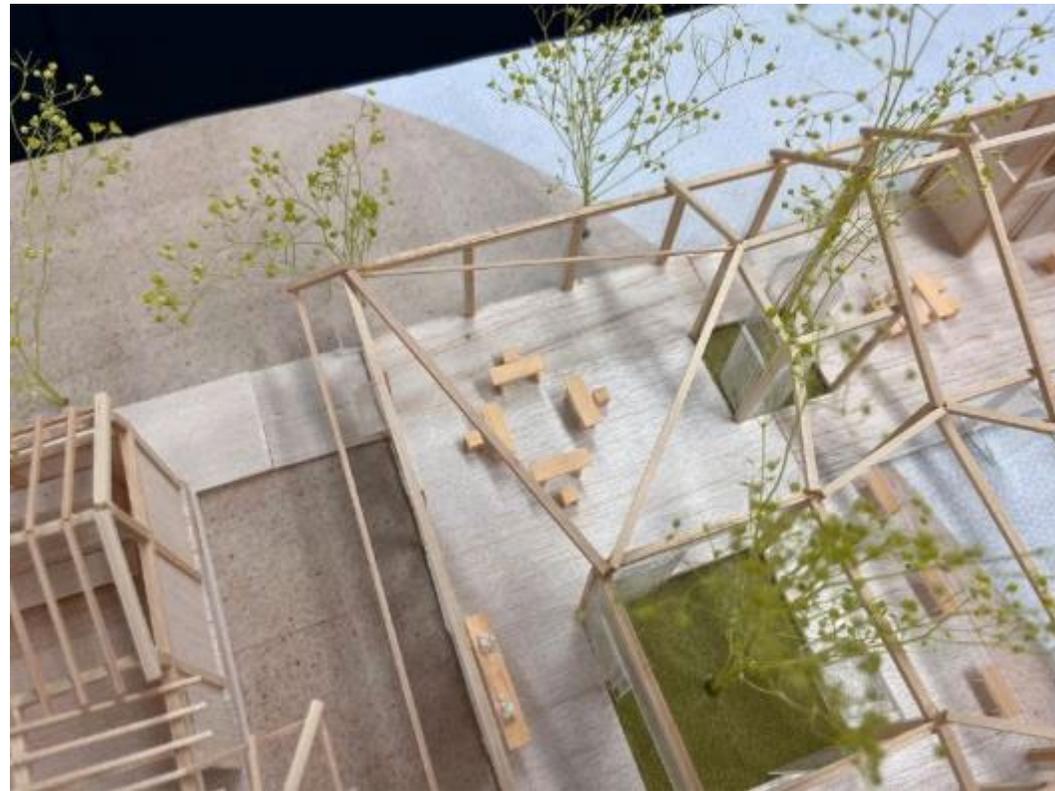


更衣室と倉庫を含んだ社務所
巫女や神職がいる神社のため、社務所
内に袴をたたむ事ができる広さを確保
した更衣室を設置した。
また、受付まで室内を歩いて移動する
ことができるため、雨でも袴やお守り
などを濡らすことがない。



受付の様子

受付や御朱印を待つ間に座れるベンチにも屋根をかけ、雨でも不便のないようにした。
御祈祷を待つ時間にはガラス張りの椅子で待ってもらえることができる。



生け花や植物について学ぶ空間
一人で広いスペースを使用できるように、大きな机を配置した。社務所を広くしたため、中庭を設けることで植物をより近くに感じるよう植栽を植えた。



社殿を囲むように花を生ける様子。

御祈祷を受けながらも花を感じることができる。

社務所は社殿に面したところをガラス戸にして生けた花が映えるようにした。反対側にも花を生ける場所を設置した。屋根をつけないことで圧迫感を生まないように配慮している。またレベルを400mmに上げることで、座ることも想定した。

遊び

東間浅間神社
石戸八雲神社

神明神社
八幡宮



③東間浅間神社：アナログゲーム

高低差を利用し、小さい部屋をいくつも設けて遊ぶため、
少人数でも遊べるアナログゲームをテーマとした。





社殿の様子

社殿の中でもボードゲームが遊べるよう
机を配置。



小さい部屋

将棋やチェスなど二人用のボードゲーム
で遊ぶため、2.5m角の小さい部屋を設計
した。部屋にはもともとある石の階段と
部屋どうしをつなぐ階段で移動する。



かるたや百人一首などで遊ぶ空間
2人部屋よりも広くし、複数人で遊ぶ事
ができる。一度階段で石壁まで上がり、
部屋に入る。とびらを占めて室内として
使用する部屋と外空間としても使用でき
る空間の2種類がある。



初山で屋台が並ぶ様子
6月30日と7月1日に行われる初山の際には参
道に沿って多くの屋台が並ぶ。その賑わい
を表すために色とりどりの屋台を表現した。

⑥神明神社：パーティ

グリコ工場のすぐ近くに鎮座することから、神社でお菓子作りや料理を楽しむことをテーマとした。





キッチン空間

みんなで料理やお菓子作りができる大きなキッチンを設けた空間。ガラスが入っていないところもあるので外に料理やお菓子の香りが広がる。



ガラス張りにすることで、道からも中の様子がうかがえる。段差をつけることで、椅子がなくても段差に座ってご飯を食べることができる。社殿の屋根が大きく張っているため、社殿の裏のウッドデッキには屋根を張っていない。



キッチンから社殿の中を通り、表のベンチへと移動する。中央には円型のベンチを設置し、会話のしやすい空間を生み出した。



談笑空間

ひさしを大きく伸ばすことで、室外でも日差しを防ぎみんなで食事や会話を楽しむことができる。

動き

宮内氷川神社
石戸宿氷川神社

中丸氷川神社
北袋神社



④宮内氷川神社、宮内巖島神社：体操

100メートルの長い参道で簡単な運動を楽しむことをプログラムとした。





社殿の様子

足をのぼしてくつろぐことができる机を配置。また、小さな椅子もあるので、足が悪い人も一緒にくつろぐことができる。元々側面にとびらはなかったが、横からも入ることができるようにした。



受付、神札授与所の様子

中でお守り等も保管できるよう棚を設け、広さを十分に確保した。奥に設け、芝や奥の建物から移動しやすいようにした。



運動をした後で休憩する空間
すぐに休憩できるよう、ガラスが入った室内空間と屋根だけの外空間の両方がある休憩場所を設計した。また、奥の芝でダンスやラジオ体操が行われている様子を座って見ることができる。



ダンスなどを披露したり、ラジオ体操をする空間
芝でラジオ体操を行ったり、広い階段をステージに見立ててダンスを披露したり、教え合ったりする。また休憩場所のため、トイレも新たに設置した。芝のため、そのまま座って休むこともできる。

⑦中丸氷川神社：武道

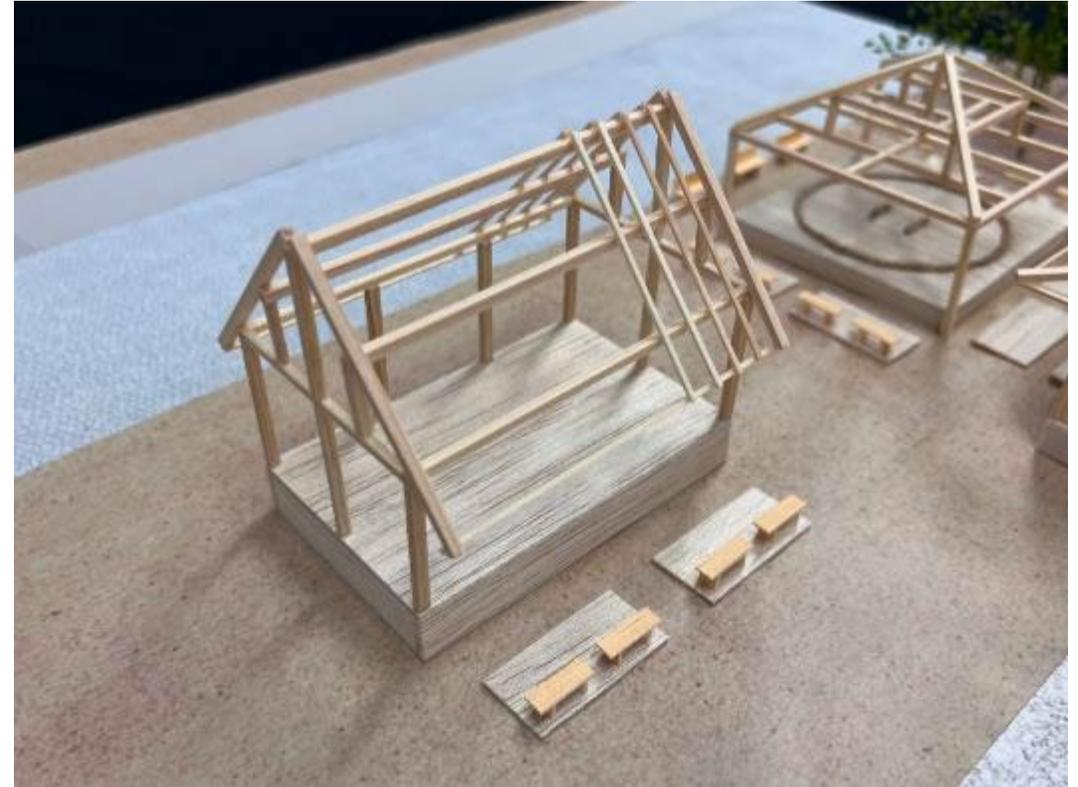
舞台上で空手や合気道を披露し、その他の武道も楽しむプログラムを設定した。





社殿の様子

中丸氷川神社は運動のための施設が多いため、社殿の中は休憩の場になっている。また、相撲の場から社殿の中を歩いて柔道剣道の場へ移動することもできる。



舞台

空手や合気道の練習を行ったり、舞台として披露したりする。小さなウッドデッキから鑑賞する。また、柱で屋根を支えているため、壁がなく、横や後ろからも見学できるようにした。



相撲の場

子どもたちが練習したり、大会を行ったりする。座って鑑賞するウッドデッキの他、足の悪い人のためベンチで鑑賞する席も設置している。



柔道剣道の場

板のまま剣道やなぎなたなどでもできるが、一部畳を置くと柔道にも使用できる。練習の休憩には社殿の中のみでなく、森の方に設置したウッドデッキも使用する。側面の一部にガラスを入れることで、練習の様子を外から見学することを想定した。

道

近くの神社をつなぐ徒歩や自転車のルート設計。ルートにある空地や公園、使われていない畑などに新たに休憩場所を設定し、歩くルートの楽しさを生み出す。

⑬東間浅間神社～本宿天神社



マンションとパン屋の間を通す道
ウッドデッキに数か所ひさしを設けることで、
神社と神社をつないでいる様子を表している。
背丈の高くない植栽を植えることで、住宅街
にも緑を加えた。



ベンチなどを置いた休憩空間
マンションとパン屋の間を通す道を抜けた先の
空き地に新たに休憩空間を設計した。空地を通
り抜けることを想定して細い道を作り、また自
転車の休憩もできるような駐輪場も設置した。